

■ドイツ：UniperやInnogyを取り巻く事業買収の動き

2017年5月31日付報道によれば、フィンランドの大手エネルギー事業者 Fortum はドイツの大手エネルギー事業者 E.ON からスピノフした新会社 Uniper の株式取得を巡り、E.ON と協議を進めていることが明らかとなった。Uniper の買収については、これまでもチェコの手エネルギー事業者 EPH やドイツの大手エネルギー事業者 RWE とも協議が行われているという話が浮上しており、今回の協議が纏まる保証はないとしている。また、2017年5月19日には、RWE は再エネ等新子会社である Innogy をフランスの大手エネルギー事業者 Engie に売却する代わりに、Engie に資本参加を行うという報道も行われるなど、Uniper や Innogy を取り巻く事業買収の動きが活発化し始めている。こうした事業買収の動きには、昨今の Uniper (E.ON) や RWE の経営状況の悪化を背景に、将来的に両社が収益性の改善や、資産価値の上昇を迎える前に事業を買収しようとする意図があると考えられる。また、原子力バックエンド費用の問題が解決し、原子力を巡るリスクが低減していることもこうした動きを後押しする形となっている。欧州では、1990年代後半から2000年代にかけて、大規模な事業買収・統合が行われたが、今回の両社を取り巻く事業買収の動きが更なる事業再編に繋がるのか、注目される。